

日本人に好まれるクルーズ旅行形態に関する基礎的分析  
—金沢港での乗下船者を対象として—

金沢大学大学院	学生会員	○松田 耕司
金沢大学	正会員	藤生 慎
金沢大学	フェロー	高山 純一
金沢大学	正会員	中山 晶一朗

1. はじめに

近年、世界中でクルーズ船の寄港回数が増加しており、日本へのクルーズ船の寄港回数も増加している。2017年1月、国交省の発表によると、日本への大型クルーズ客船の寄港回数は、前年比38.8%増の2,018回となり、過去最多の記録となっている<sup>1)</sup>。我が国へのクルーズ船の寄港回数の推移を図-1に示す。特に外国船社の寄港回数が急増している。今後、日本へのクルーズ船の寄港回数はさらに増加することが考えられる。

一方で図-2に示すように、ここ数年の日本人のクルーズ利用者数はほぼ横ばいとなっている<sup>2)</sup>。日本人はクルーズに対して、お金がかかることや時間がないなど、ネガティブなイメージをもっていることが原因であると考えられる。そこで、日本の生活スタイルに合ったクルーズのプランを検討する必要がある。

2. 既往研究と本研究の目的

クルーズ旅客の観光における研究は多くされている。藤生ら<sup>3)</sup>により、平成26年度に金沢港に来航したクルーズ乗船客を対象として、アンケート調査やGPSロガー・小型カメラを用いた調査がされており、それらの分析が行われている。

クルーズ船の寄港パターンの分析やクルーズ需要の実態を分析した事例もある。川崎ら<sup>4)</sup>により、内航クルーズ船の寄港パターン分析がされている。ある寄港地から次の寄港地を選択する際に、距離が長い寄港地の選択確率が低いことを明らかにしている。池田ら<sup>5)</sup>は、料金、期間、船酔い指標、クルーズの認知度を説明変数に採用して、日本におけるクルーズ客船の需要予測手法を提案し、大型クルーズ客船の就航可能性について分析している。小島<sup>6)</sup>は、クルーズ観光誘致に向けた港の新たな整備の方針、及び必要条件等を整理している。

しかし、数あるクルーズでの旅行プランから一つのプランを選択する際の選択要因に関する研究はほとんどされていない。そこで本研究では、金沢港に寄港したクルーズ乗船客を対象に、SP調査を実施し、クルーズ船での旅行を選択する際に考慮する、選択要因に関して分析を行った。本研究によって、日本人に好まれるクルーズプランを明らかにすることで、今後の日本におけるクルーズ利用者数の増加につながると考えられる。

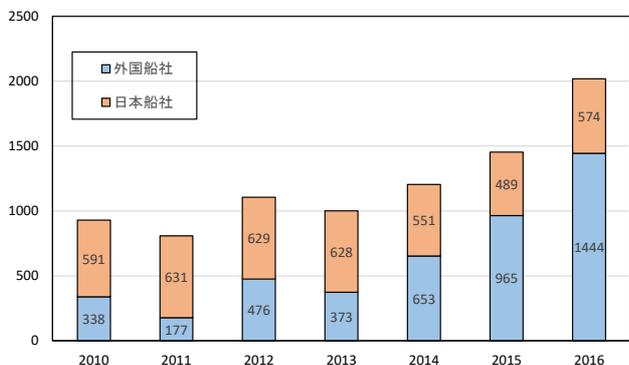


図-1 クルーズ船の寄港回数の推移<sup>1)</sup>

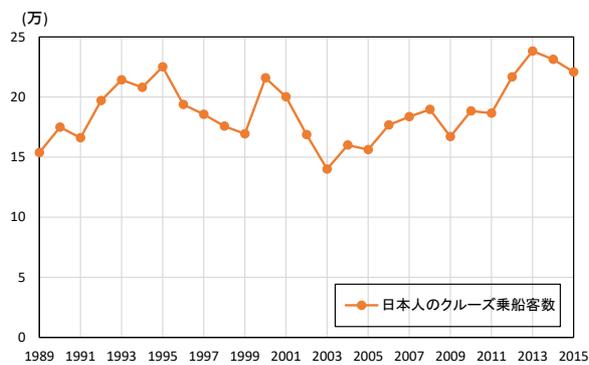


図-2 日本のクルーズ船の利用者数の推移<sup>2)</sup>

キーワード クルーズ客船, クルーズ利用者, 寄港実態, クルーズ選択要因  
連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町金沢大学理工学域環境デザイン学系 2C719 Tel.076-234-4914

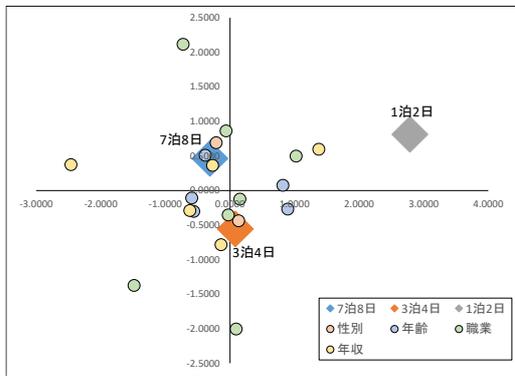


図-3 日数

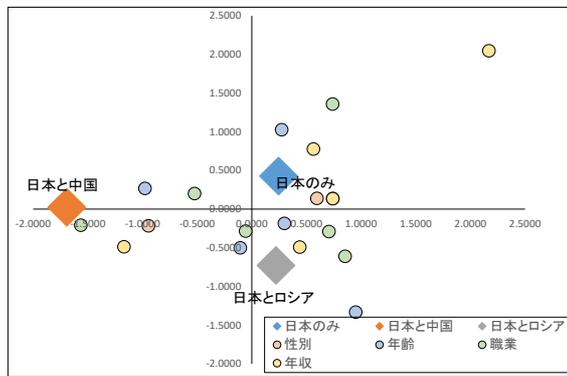


図-4 寄港エリア

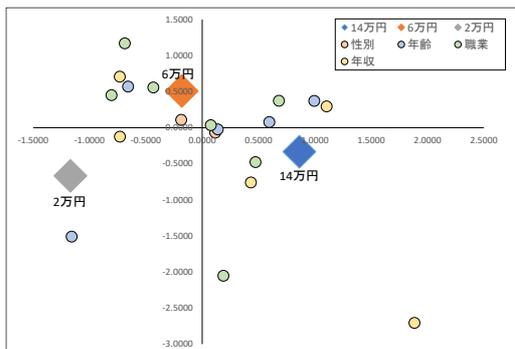


図-5 クルーズの価格

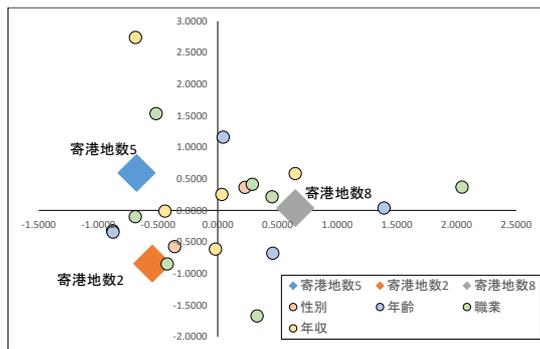


図-6 クルーズの寄港地数

### 3. 本研究での調査概要

本研究では、2016年8月、9月に金沢港へ寄港したコスタ・ビクトリアの乗船客を対象に、SP調査を実施した。下船時にアンケートを配布し、後日郵送での回収とした。アンケートはA3の2枚構成で、1枚目では性別、年齢、職業、年収など個人属性や金沢の観光行動に関する質問を行っている。

2枚目のSP調査は、「日数」、「価格」、「寄港地数」、「日本語のコミュニケーションの容易性」、「寄港エリア」の要因に対して、それぞれの要因に対し3つの水準を与え、直交表を用いて9つの選択肢を作成した。

### 4. 数量化Ⅱ類によるSP調査の分析結果

アンケートでは、9つの選択肢の中から1位から3位まで順位付けの回答をいただいた。今回、1位と回答された選択肢を数量化Ⅱ類により、分析を行った。目的変数を「日数」、「価格」、「寄港地数」、「寄港エリア」とし、それぞれの目的変数に対して説明変数を「性別」、「年齢」、「職業」、「年収」と4つにした。この結果を図-3から図-6に示す。目的変数と各カテゴリーとの距離が近い程、お互いに影響しているといえる。

寄港地数では、目的変数「寄港地数8」に「無職」、「750~1000万円」のカテゴリーが近かったことから寄港地数が多くなるほど時間やお金に余裕がある人が好むことがわかった。また、寄港エリアでは「国内のみ」であること、価格では安価のプランより高価なプランを選択している傾向がみられた。

### 5. まとめと今後の課題

今回、クルーズ乗船客を対象としたSP調査の実施により、「日数」、「価格」、「寄港地数」、「寄港エリア」のそれぞれにおいて、どのような属性の乗船客がどのようなクルーズを好むか分析した。

今回は基礎的な分析に留まっているため、今回のアンケート調査で得られた結果から、今後詳細な分析をし、クルーズ旅行の選択モデルの構築を行う。

### 参考文献

- 1) 国土交通省 2016年の訪日クルーズ旅客数とクルーズ船の寄港実績(速報値)  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/port04\\_hh\\_000163.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000163.html) 平成29年1月20日閲覧
- 2) 2015年の我が国のクルーズ等の動向について  
<http://www.mlit.go.jp/common/001133421.pdf> 平成28年6月4日閲覧
- 3) 藤生ら：ライフログカメラ・GPSロガーを用いた観光行動分析, 日本クルーズ&フェリー学会論文集, 2015
- 4) 川崎ら：内航クルーズ船の寄港パターン分析, 日本大学理工学部社会交通工学科卒業論文概要集, 2014
- 5) 池田良穂, 田角宏美：日本におけるクルーズ需要推定とマーケット育成方法, 関西造船協会春季講演会平成13年5月
- 6) 小島肇：沖縄におけるクルーズ観光の現状と展望, 土木計画学研究発表会・講演集, Vol.37, CD-ROM.